

施策番号	1903		
施策名	子どもを共に育む気運づくり		
概要	子どもの豊かな学びと育ちを各家庭はもとより，市民ぐるみ・地域ぐるみで支えるため，「子どもを共に育む京都市民憲章」が，大人の行動規範として定着することを旨とする。		
担当局・部室	教育委員会・生涯学習部	共管局・部室	保健福祉局・子育て支援部
上位政策	19 生涯学習		
施策に関する主な分野別計画等	京都市未来こどもはぐくみプラン		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	25年度	26年度	27年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト	
1 子どもを共に育む親支援プログラム参加者数(人)	a	a	15,392	15,624	10,000	156.2%	a	1.00	
2 子どもを共に育む京都市民憲章実践推進者表彰応募件数(件)	a	b	35	29	39	74.4%	e	1.00	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				c	

2 市民生活実感評価

*この評価は，毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	27年度回答					有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない		
1 子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。	25	120	220	73	38	476	c
	5.3%	25.2%	46.2%	15.3%	8.0%		
2 -							-
3 -							-
4 -							-
5 -							-
						市民生活実感調査総合評価	c

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

C	施策の目的がそこそこ達成されている					26 年度	B
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	c	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 子どもを共に育む社会になっていると市民に実感されることにより初めて施策目的が達成される施策であり、市民の実感に重みを付ける方が適切であるため						25 年度	B
(原因分析) 【客観指標】 ●子どもを共に育む親支援プログラム参加者数に関しては、保護者が気軽に参加できるよう、実施場所の拡大や事業の周知等を図ったことにより、3年連続a評価と高い評価で安定している。 ●子どもを共に育む京都市民憲章実践推進者表彰応募件数に関しては、前年度と比較して6件減となったため、b→e評価となった。 【市民の実感】 子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動の広がりについては、「子どもを共に育む京都市民憲章(愛称:京都是ぐみ憲章)」認知度の上昇や、子どもを共に育む親支援プログラムの参加者の増加など、取組は着実に進んでいるが、児童虐待やいじめ、インターネットの不適切利用等、子どもを取り巻く環境が依然として厳しい状況にあるため、c→c評価となっている。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		27年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		26年度 決算額	27年度 予算額		
1	P T A 研修・啓発	61,654	62,196	良い	教育委員会
2	成人式	35,930	35,107	普通	教育委員会
3	放課後まなび教室推進事業	217,403	217,622	良い	教育委員会
4	人づくり21世紀委員会	27,421	27,765	かなり良い	教育委員会
5	家庭教育・子育て支援の充実	61,918	63,045	良い	教育委員会
6	京都市子育て支援総合センターこどもみらい館	269,383	267,033	良い	教育委員会
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

●子どもを共に育む京都市民憲章実践推進者表彰応募件数の増加に向け、各行政区等で憲章の実践につながる取組を行っている個人又は団体に周知を図り、本表彰への応募を積極的に働きかける。
 ●市民実感評価において、「どちらとも言えない」が約半数を占めているため、子どもを社会全体で育むことを目的とした「子どもを共に育む京都市民憲章の実践の推進に関する条例」(23年4月施行)に基づく取組を一層推進し、市民憲章の周知を更に徹底するとともに、行動指針の策定・実践など、各分野で実践行動を一層広げ、市民・地域ぐるみで子育てを支え合い、子どもたちを健やかで心豊かに育むまちづくりを進める。

施策名	1903	子どもを共に育む気運づくり
-----	------	---------------

指標名	子どもを共に育む親支援プログラム参加者数（人）
-----	-------------------------

担当課	生涯学習部家庭地域教育支援担当	連絡先	251-0456
-----	-----------------	-----	----------

1 指標の説明

学校・幼稚園・保育所等の場で、地域の支援者の協力も得て、親同士が親としての心構えや必要な知識・技術を学び合い、子育ての不安や孤立感を軽減させる「親支援プログラム（ほっこり子育てひろば）」の参加者数

2 指標の意味

市民ぐるみで子どもたちを育むまちづくりに向けて、地域で子育てを学びあう場への親の参加状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		達成度
	25年度	26年度		数値	根拠	
数値	15,392	15,624	232人増	10,000	平成32年度の目標達成のために当年度に達成すべき数値	156.2%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		20,000	32年度	78.1%	80,000（京都市内の0歳～15歳の子どもがいる想定世帯）×0.25（受講回数/年※） ※ 子どもが0歳から15歳までの16年中、計4回受講すると想定（妊娠期・乳幼児期・小学生・中学生の各1回）

備考	中長期目標を予定より早く達成したため、目標を再設定した。
----	------------------------------

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上～100%未満
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

6 基準説明

100%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

25	26	27
a	a	a

指標名	子どもを共に育む京都市民憲章実践推進者表彰応募件数（件）
-----	------------------------------

担当課	子育て支援部児童家庭課、生涯学習部家庭地域教育支援担当	連絡先	251-2380, 251-0456
-----	-----------------------------	-----	--------------------

1 指標の説明

「子どもを共に育む京都市民憲章（愛称：京都はぐくみ憲章）」の行動の輪を広げるため、同憲章の実践活動としてモデルとなる活動やユニークな活動を表彰する「実践推進者表彰」への応募件数（自薦、他薦を含む。）

2 指標の意味

「京都はぐくみ憲章」の市民への普及状況及び実践活動の広がりを示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		達成度
	25年度	26年度		数値	根拠	
数値	35	29	6件減	39	前年度比10%増	74.4%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	来年度以降、評価基準の見直しも含めて検討する。
----	-------------------------

5 評価基準

最新数値が前年度比
a：10%以上増
b：5%以上～10%未満増
c：0%以上～5%未満増
d：6%未満～0%超減
e：6%以上減

6 基準説明

目標値（前年度比10%増）以上をa、それ以下を5%刻みで設定した。

7 評価結果

25	26	27
a	b	e